

植物多様性センターの「ヤブラン」

ヤブランは山野に自生する多年草です。常緑で乾燥・日陰どちらにも適応できるため、多くの庭園や公園でグラウンドカバーとして植栽されています。酷暑に咲く薄紫の花は、単純に下から咲きあがるのではなく、1本の花茎の同じ位置でも、つぼみや若い種子が混在する構造です。長く咲くことで受粉の機会を増やし多くの種子をつける戦略なのでしょう。よく似たジャノヒゲの仲間とは花が上向きに咲くことで容易に見分けられます。



開花：細長い葉の基部から伸びた花茎に総状に花をつける



花の構造：1か所から数個ずつ束生し、6枚の花被片をもつ



裸の種子：若い種子の基部の褐色部分は脱落した蒴果の果皮



種子：緑色からやがて黒く光った丸い種子に成熟する